

和歌山病院での実習を終えて



大江 直

12月4日、5日の二日間、第三内科のポリクリの一環として和歌山病院の呼吸器内科で実習をさせていただきました。

午前中は結核をはじめとした空気感染する感染症を予防する N95 マスクを実際につけて、結核病棟の見学をさせていただきました。N95 マスクは普段つけるサージカルマスクとつけ方も違い、密着感が強く守られている気がしました。また、病棟は思っているほど隔離されている感じはなく、空気の流れで外に結核菌が出ないように工夫されていました。

午後はまず、胸部レントゲンの読み方について教えていただきました。レントゲンの原理から、なぜレントゲンに線が移るのか、それを踏まえて肺の病変を見つけるには何に注目すればいいのかについて、本当に今まで聞いたことのない論理的に考えるきっかけを与えてくださいました。そのあとは人工呼吸器のモードの種類を教えてください、実際に人工呼吸器をつけさせてもらってどれくらい呼吸の補助をしてくれるのかを体感することができました。呼吸しているリズムに合わせ、マスクから空気が送られてくるうえ、呼吸を止めていたらしばらくして大きな圧力で空気が送られてきて驚きました。

夜は、南方院長と鳥好という焼鳥居酒屋へ向かいました。地元御坊に伝わる伝説や歴史についていろいろお話を聞かせていただくことができました。僕は昔から日本史が好きなので非常に興味深く、楽しいひと時を過ごすことができました。

翌日は肺結核や気管支鏡についてのセミナーを受けました。特に肺の区域を身体で覚えることができる「ブロンコ体操」は大学に帰ってからも復習してしっかり身につけたいと思いました。帰りの電車までの間に、ロマンシティで和歌山病院が催していた地域の人々の健康診断に混ぜていただきました。呼吸機能だけでなく、骨密度や体脂肪率など多くの検診をしていて、地域との結びつきの強い病院だと感じました。

和歌山病院では、医大の呼吸器内科で扱っている肺癌をはじめとした呼吸器腫瘍とは違い、呼吸器の感染症について多くのことを学ぶことができました。将来どの診療科に進んでも感染症の知識は絶対に必要になると思うので今回結核を中心に感染症について学ぶことができよかったです。僕は来年の6月にも選択ポリクリで和歌山病院の呼吸器内科で実習させていただくので、この経験を活かしさらに学びを深めていきたいと感じていま

す。

この二日間、南方院長、駿田副院長をはじめ、和歌山病院の多くの方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。また半年後、よろしく願いいたします。